

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100696		
法人名	特定非営利活動法人あわせサービス		
事業所名	グループホーム花にしかわつ		
所在地	島根県松江市西川津町699-3		
自己評価作成日	令和7年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先 https://www.kaihokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3290100696-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和7年8月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利便性の良い閑静な住宅地にあり、地域の医療と連携を取っている。
地区自治会とも良好な関係を保ち、今後更に積極的な交流活動を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2017年3月に松江市の閑静な住宅地に開設された2階建てのグループホームです。地区自治会にも加入されており、コロナ禍で中断されていた地区的行事も再開されつつあり、地域の方との交流も復活してきておられ、住み慣れた地域で穏やかに日々を過ごされています。理念の「命を尊重し、人間の尊厳を大切に、ともに生きる。」の実践につながるよう利用者と職員のよりよい信頼関係が構築できるよう接遇研修や虐待防止研修等、振り返りの時間を持たれています。看護師が職員として勤務されており、利用者の健康管理、地域の医療連携も行われ利用者、家族の安心へとつながっています。事業所として就業環境の整備も図られており、頑張った人が評価してもらえる体制が作られています。利用者が食事の下ごしらえや片付け、清掃など個々の能力を活かせるよう取り組まれています。手作りのおやつを作られたり、誕生日会、行事食も提供され食事を楽しめるような工夫をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のよう 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しづつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己 外 部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況	実践状況	
I. 理念に基づく運営				
1 (1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を常に見える所に掲げて朝礼時に唱和を行い、職員全体で共有実践につなげている。	毎日の朝礼時には唱和をされ、外部評価の際には振り返りを行ない理念の理解、周知をされ実践へつなげておられます。	
2 (2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集まりに参加し、理解が得られるよう交流を図っている。また、ホームの行事にボランティアの方も参加してもらい利用者と交流していただいている。コロナ以降交流が減っていたが、可能な限り継続出来る様心がけている。	コロナ禍以前のように再開された地域の行事もあり、参加されています。地域と良好な関係が保てるよう心掛けておられます。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に対してアドバイスを行っている。		
4 (3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度開催し、利用者の状況、行事報告などを行い、委員の意見等を施設の運営やサービス向上に活かせるよう図られています。また、消防署や警察からゲストを招かれ安全面の講話が行われています。	利用者の日頃の様子を見て頂く機会として、例えば昼食試食会や避難訓練時に運営推進会議の開催も検討下さい。	
5 (4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と連絡を密にとり、情報共有を行い、協力関係を築くよう努めている。	運営推進会議のメンバーとして松江市介護保険課、松東地域包括センター職員が出席頂いておられます。感染症等の流行等の情報共有を行ない協力関係が築けるよう心掛けておられます。	
6 (5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員を対象に「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について繰り返し研修を行い理解をしている。玄関は内部から出られるようにしており身体拘束をしないケアをしている。	身体拘束廃止委員会は2ヶ月ごとに開かれており、全職員を対象に「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について繰り返し研修を行い理解を促されています。玄関は内部から出られるようにしており、身体拘束のない利用者との信頼関係が構築できるようなケアに取り組まれています。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修により学ぶ機会を持ち、虐待を見過ごすことのないよう注意を払っている。	虐待防止委員会も2ヶ月に1回開かれており、指針の作成も行われています。研修により学ぶ機会を持ち、虐待を見逃さないよう注意されています。虐待の芽チェックリストの活用もされています。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで制度について学び、必要なケースであれば提案していく。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明し、後日でも疑問点等あれば対応している。		
10 (6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを行ったり意見箱や面会時の話などから意見や要望を伺い運営に反映させている。	利用者へは日々の会話から意見・要望を聞き取り、家族へはアンケートを行ったり、意見箱や面会時の話などから意見や要望を伺い運営に反映させておられます。また、プラン変更時、遠方の家族へは電話や手紙で連絡取り意見や要望を伺われています。	
11 (7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案について話し合い運営に反映させている。	毎月定例の全体会議で話し合われており、理事長・管理者にも意見が届きやすい体制が取られています。施設内のSNSでの情報交換(モニタリングも含む)も行われており、気づきをすぐに発信できるよう取り組まれています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情も考慮しながら働きやすい条件を整えている。また給与水準の引き上げ、時間外労働の抑制を図っていて、職場環境の改善に努めている。	事業所として就業環境の整備に努めておられます。 キャリアアップによる給与への反映を行ない職員の頑張りに対する評価が行われています。	
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加や日々の業務の中で職員個々の経験や介護技術を教え合うことでスキルアップを図っている。	それぞれの職員に応じて外部研修の機会やリモートで研修にも参加され、個々のケアのスキルアップが図られています。	
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や部会などを通して同業者と交流する機会を持ち、意見交換を行いスキルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	共感しながら本人の話を傾聴し話しやすい雰囲気を作り、安心していただけるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を良く聴き、疑問に丁寧に答えることで信頼していただけるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番の課題やニーズは何かを考え、必要なサービスを組み合わせて提案している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時には知恵を借りたり助けてもらうこともあり感謝の気持ちを持ち、対等の立場で接している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が本人を思う気持ちを尊重し、相談しながら共に支援にあたっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は玄関先のベンチで行っている。会うことの出来ない知人とハガキのやり取りをされている方もいる。馴染みの場所へは感染防止に努めながら、外出支援を行っている。	近くに家族が住んでおられる方も多いので、面会に来られたりドライブを兼ねて自宅を見に行かれることもあります。	面会が難しい場合には手紙や写真から昔話をしていただき回想法へつなげて頂ければ良い思います。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の様子を見守り、時には職員が間に入って良い関係性が保たれるよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も気にかけ相談に乗っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ここでどういうふうに暮らしていきたいか、本人の意向を聞いている。また、ご本人のこととを良く分かつておられるご家族の意見も参考にしている。	日々の会話の中から本人の望む生活が見つかるよう耳を傾けておられます。意思疎通が上手くできないかもおられるので、家族からの意見も聞かれています。	本人の生きがいにつながるような目標が作成できると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでどのような生活をしてこられたのか 基本情報や本人や家族の話から理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日生活されている様子を観察し現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントや担当者会議で課題を探り、関係者の意見も取り入れながら介護計画を作成している。	家族や医師の意見も取り入れ、施設内SNSでモニタリングを行ない、計画作成担当が介護計画を作成されています。評価見直しは6ヶ月、カンファレンスは2~3ヶ月に一度、変化があれば随時変更されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートを利用し情報の共有を図っている。	現在全て個別記録や申し送りノートは手書きで記入され、情報の共有が図られています。プラン変更時には計画作成者から留意点が伝えられています。タブレット入力も検討中です。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じて柔軟な対応を心掛けている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それまでのつながりを途切れさせないように配慮している。		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望されているかかりつけ医への受診を支援している。	従来からのかかりつけ医を受診される方もあり、受診支援も行われています。協力医は定期的に往診に来られています。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が気づいた変化はすぐに看護職やケアマネに報告し相談して受診につなげている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に経過や現状、既往歴などをきちんと説明し、退院時には入院中の様子を聞き退院後の留意点などについて相談している。	病院への入院の際には地域連携室と連携を取りながら、早期退院を目指し情報共有が行われています。退院時には退院後の生活の注意点等のアドバイスを受けておられます。	
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	前もって本人や家族の意向を聞いて医療機関とも連携をとりながら対応している。	利用開始時に重度化や終末期の説明をされ、本人や家族の同意を得ておられます。重度化が進み医療行為が多くなった段階で医師からの説明があり、入院等次のステップへの対応が行われています。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	消防署から来ていただき、救命救急の講習を受け、いざというときに適切な対応ができるように努めている。市内の感染状況を見極めながら、講習会を行う予定。		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時における避難訓練を行い、職員の危機管理意識の向上に努めている。	年2回の避難訓練を実施(内1回は消防署立ち会い)されており、原発事故対応の計画作成されています。BCP計画の策定も行われており、備蓄品の用意もされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を行い振り返りの機会を持ち、丁寧な言葉遣いを心掛け、プライバシーに配慮して声掛けを行っている。	接遇の研修を行い振り返りの機会を持ち、理念にある「命を尊重し、人間の尊厳を大切にともに生きる。」を実践できるよう、職員同士で丁寧な言葉遣いを心掛け、プライバシーに配慮した声掛けができるよう心掛けておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れが決まっている中でも、本人のペースを優先するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれのこだわりを尊重し、本人に選択していただいてアドバイスをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を表示、説明し楽しみに待つ雰囲気づくりをしている。調理の下ごしらえや片づけなど出来る方には一緒にしていただいている。	御飯と汁物はGHで準備され、主菜・副菜は届けられています。シーズン毎に誕生会やホットプレートで手作りおやつを作られたり、行事食も提供され、楽しい雰囲気で食事ができるよう取り組まれています。下ごしらえや片付け等できる方は職員と一緒に行っておられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導のもと食事量や形態などを決め、水分も含め摂取量を毎日記録して過不足のないよう気を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な人は職員が行い、自立の人には声掛けをしている。	口腔ケアはそれぞれの状況に応じて対応されており、介助の必要な方には職員が行ない、自立しておられる方には声掛けをし、歯磨き後には口腔状態の確認をされ、義歯は夜間に洗浄液に漬け清潔保持されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の声掛けや手伝いを行い、尿意や便意のある人にはトイレへ移乗し排泄をしていただいている。	チェックリスト表で排泄リズムを把握され、個々の状態に応じた声掛け、誘導、介助の支援が行われています。できるだけ最期までトイレで排泄ができるよう努めておられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の摂取量を記録により把握管理し、毎日の体操に腸の働きを促すものを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の予定はあらかじめ決めてあるが、その日の本人の希望や体調によって柔軟に対応している。	基本的には週2回入浴の日があり、特浴の設備も用意されています。2名介助の方もあり、利用者の体調に応じて対応が行われています。現在は拒否傾向の方はなく、みなさん入浴を楽しめています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や就寝時間は本人の生活習慣を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの服薬状況は確認・記録し介助の必要な人には介助を行い、確実に服薬できるようにしている。	薬は薬局から個包装された状態で配達され、個人ファイルに服薬内容は入れ把握されています。まず看護師がチェックされ、、もう一度職員も確認され間違いないよう注意され、服薬変更がった場合には注意深く観察され、何かあれば看護師に連絡、医師に伝えられています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの仕事や趣味、好きなことなどを伺い、提案し受け入れられればしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診に合わせた外出やドライブなどを行っている。また本人の希望を聞き家族との外出や外泊ができるように調整している。	コロナ禍から外出の機会が少なくなっていますが、気候のよい日には外のベンチに座り外気を感じて頂いたり、受診に合わせて外出やドライブが行われています。また、本人の希望を聞き家族と外出や外泊ができるよう調整されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所持したり、希望で預り使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の意向も聞きながら対応している。本人が直接固定電話や携帯電話を使用し家族と連絡をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまぬくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心掛け、季節の花を飾ったりこまめな温度調整などを行い、落ち着いて過ごせるようにしている。	清潔に保たれた空間に季節の花や絵画を飾り、温度管理を行い、換気にも気を付け、利用者が落ち着いて和やかに過ごすことができるよう心掛けておられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置を工夫することで思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが使い慣れたものを引き続き使えるようにしている。	部屋の一室を自分の為に借りておられるという考え方で、本人の使い慣れた品や馴染みの物、家族の写真等を持って来ていただき、本人が居心地良く過ごせるよう心がけておられ、室内のトイレにも行きやすい動線に配慮したレイアウトになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札や目印をつけたり、ベッド柵や手すりなど本人に合わせ「できること」「わかること」を増やすようにしている。		